

紙芝居 「みんなの ふじさん」



①



「みんなの ふじさん」

よく晴れた夏のある日。

馬のうまおくんは、今日も退屈でした。

うまおくん

「昔はよかったなあ。たくさんの人を荷台に乗せて、町を歩きまわったっけ…。ふわあ

ゝあ：ひまだなあ…」

うまおくんは、お浅間さんで、おいしい水を飲みながら、大きな富士山をぼんやり眺めていました。

②



ある日、うまおくんがお昼寝をしていると、夢に神様が出てきて、「こーいいました。」

さくや姫

「うまおくん、わたしはさくや姫。富士山の神様。この頃、とっても苦しくて…息ができないの：助けて！うまおくん！」

うまおくんは、ハッと目を覚ましました。

うまおくん

「富士山で、なにかが起こっているのかもしれない。さくや姫を助けなくちゃ！」

うまおくんは走り出しました。

③



富士山に登りはじめたところで、倒れているきつねくんを見つけたました。

うまおくん

「きつねくん、どうしたの?! 一体なにがあったの?!」

きつねくん

「ぼく、富士山に登ろうと思ったんだけど…」

富士山ってね、僕が思ってたよりずっと高くって、いくら走っても、てっぺんはずっとむこう。横をスイスイ通り過ぎていく車から出た空気で、気持ち悪くなっちゃって…  
：道に捨てられていたビンのカケラで足を切っちゃったし：えーん、えーん。」

きつねくんは泣き出しました。

まわりには、たくさん動物たちが集まっていて、真剣にきつねくんの話をきいていました。

④



そこに、1台のバスが通りかかりました。

運転手のおじさん

「みんな、どうしたんだい?」

運転手のおじさんが降りてきてききました。

動物たちは、大さわぎ!

動物たち

「人間の作った車や、人間の捨てたゴミのせいで、ぼくたちは、大迷惑だよ!!!」

⑤



動物たちの話を聞いたおじさんは、悲しそうにいました。

運転手のおじさん

「そんなことがあったのか：みんな、ごめんね。このバスを見てごらん。たくさん人が乗れる乗り物なのに、全然乗っていないんだ。みんな、自分たちの車で富士山に行こうとするから、たくさん車の出す悪い空気で、富士山がどんどん汚れていってしまう：どうにかならないかなあ：」

うまおくんは言いました。

うまおくん

「よし! みんなで、人間のところに行こう! 人間たちは、『5合目』っていう、富士山の真ん中くらいの場所まで車で行くらしい!!!」

運転手のおじさん

「それなら、みんな、バスに乗って! おじさんが5合目まで連れてくよ!」

⑥



バスは、ほんの少しの人間たちと、たくさんの動物でぎゅうぎゅうになりました。  
はじめて人間の作った『バス』に乗った動物たちは：

動物たち

「わあ、バスってはやいね。便利だね。

車をたくさん使っちゃう人間の気持ちも、わかる気がする。」

「でも、富士山が汚れちゃうし、私たちも暮らせなくなっちゃうのは、困るね。」

「みんなが、バスに乗ってくれて、ゴミを捨てないでくれるといいね！」

⑦



あつという間に5合目に着くと、車がいっぱい！

きつねくんがいました。

きつねくん

「人間のみんな、よく聞いて！ぼくたちは、傷ついてるんだ！！」

動物たち

「きれいな富士山をかえせー！！！」

動物たちも、声をそろえています。

⑧



うまおくんは、ため息をつきながら言いました。  
うまおくん

「どうして、最近の人間はたくさん車をを使うんだい？僕が人間を乗せてたときなんて、ひとりで十人もの人を乗せて運んだものさ。空気だつて汚さなかった。みんな、バスや電車を使おうよ。そうしたら、空気もきれいになるよ。」

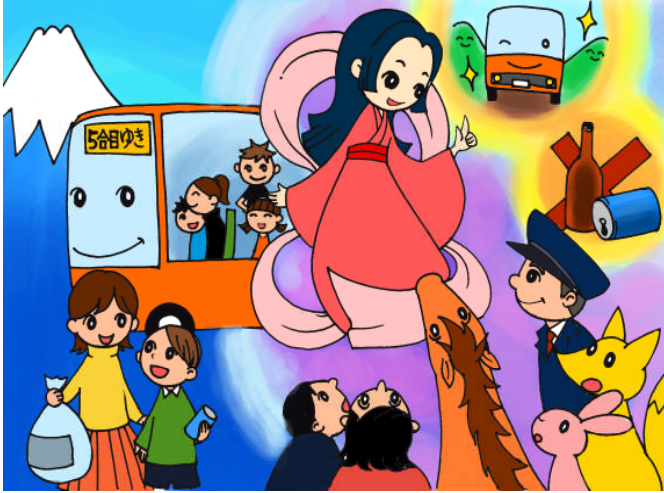
人間を代表して、バスの運転手さんもいいます。

運転手のおじさん

「みなさん、富士山が好きなら、どうか、バスに乗ってください！きれいな富士山を守ってくださいましょう！」



⑨



すると、あたりがピカツと光り、  
うまおくんは夢に出てきた神様が現れました。

さくや姫

「わたしはさくや姫。富士山の神様。うまおくん、きてくれてありがとう。みんな、けんかはやめて。

人間のみなさん。きれいなふじさんをまもるために、バスを使ってね。ごみもきちんとお家に持って帰ってね。私は、みなさんを、いつも見守っていますよ。」

⑩



動物たちや、運転手さん、さくや姫の言葉を聞いた人間たちは、富士山に行くときはバスを使うようになり、ゴミを捨てるのをやめました。

うまおくん

「人間も、動物も、仲良く暮らしていけるといいな。」

うまおくんは、おいしい水を飲みながら、ヒヒーンと鳴きました。

ピカピカになった富士山を見て、さくや姫も、にっこり。

いつまでも、きれいな水が湧くように。

元気な子どもたちがうまれるように。

栄養たっぷりの野菜やお米ができるように。

さくや姫は、今日も、みんなを見守ってくれています。

(おわり)